



みどり



172号『排尿障害②』

2022年9月1日発行／編集責任者 田中 眞／毎月1日発行／群馬県藤岡市篠塚105-1
<http://www.shinozuka-hp.or.jp/center/>

前回は蓄尿障害による症状である失禁を解説しました。今回は蓄尿障害による頻尿と、排出障害による排尿困難、尿閉を解説します。

頻尿とは

一般に、排尿回数が起床から就寝までに8回以上、就寝中に2回以上の排尿が必要な場合に頻尿とされます(表1)。

表1. 頻尿の定義

排尿の回数が

- 起床から就寝まで：8回以上
- 就寝中：2回以上

適切な診断と治療が望まれる、日常生活に与える影響が大きい症状です。

頻尿の病態

頻尿の背景には大きく分けて4つの病態があります(表2)。

表2. 頻尿の背景にある病態

- 1) 膀胱容量の低下
- 2) 多尿
- 3) 残尿量の増加
- 4) 心因性

1) 膀胱容量の低下

膀胱容量が低下し、膀胱に少し尿が貯留しただけで尿意を感じてしまう状態です。一回排尿量が減少するため(150~200ml以下)、一日の排尿回数が増加することになります。頻尿に加えて、尿意切迫感(突然強い尿意を感じ、尿を漏らしそうになる)や、切迫性尿失禁(尿意切

迫感に伴って生じる尿失禁)を伴うことが多いです。原因として、膀胱炎、過活動膀胱、膀胱結石、間質性膀胱炎や膀胱腫瘍などがあります。

2) 多尿

一日の尿量が「体重(kg)×40ml」以上の場合、多尿と定義されます。原因として、多飲、糖尿病や利尿薬の使用などがあります。また夜間の頻尿の原因として「夜間多尿(夜間のみの多尿)」という病態があります。これは、加齢による夜間の抗利尿ホルモンの分泌低下や高血圧等が一因となります。

3) 残尿量の増加

排尿機能の障害があると、排尿後に膀胱内に尿が残ってしまいます。排尿を繰り返すたびに膀胱内の残尿は蓄積し、蓄尿するための膀胱容量が減少してしまうため、排尿の間隔が短くなり頻尿となります。原因として、神経因性膀胱や前立腺肥大症等があります

4) 心因性

排尿機能は正常であるにも関わらず、不安や緊張等の心理的な原因で頻尿となる病態です。

* * *

頻尿になる代表的な病態である過活動膀胱と前立腺肥大症を解説します。

1) 過活動膀胱

過活動膀胱とは、尿意切迫感を必須とし、通

常は頻尿および、または夜間頻尿を伴う症候群です。有病率は年齢とともに増加し、女性に多くみられます。原因は多岐に渡りますが大別して神経疾患に起因する神経因性と非神経因性に分けられます（表3）。

表3. 過活動膀胱の原因

1) 神経因性過活動膀胱

- ・脳疾患；脳血管障害，神経変性疾患など
- ・脊髄疾患
- ・末梢神経障害；腰部脊柱管狭窄症，糖尿病性末梢神経障害など

2) 非神経因性過活動膀胱

- ・メタボリック症候群（膀胱の血流障害）
- ・女性ホルモンの分泌低下，骨盤臓器脱
- ・前立腺肥大症

2) 前立腺肥大症

前立腺組織の過形成により前立腺が腫大し、下部尿路閉塞や排尿に関する症状が引き起こされる疾患です。ただし、前立腺腫大の程度と下部尿路症状の程度には必ずしも関連しません。

頻尿の治療

上記の病態に応じて、行動療法（体重コントロール，膀胱訓練や骨盤底筋体操）や薬物療法が選択されます。これらの保存的治療での改善が乏しい場合には、低侵襲外科的治療が選択されることもあります。

* * *

次に、排出障害による「排尿困難」と「尿閉」を解説します。

尿の排出障害

排出障害は「排尿困難」、すなわち、尿を出すことができなくなる状態です。

症状は残尿感（排尿後、尿が膀胱内に残っている感じ）です。排出障害が重度になると「尿閉（尿をまったく出せない状態）」になります。

背景にある病態には、膀胱収縮障害（低活動

膀胱）と尿道通過障害があります。各々の原因となる疾患を表4に示します。そのほか、薬剤の副作用、便秘、大腿骨骨折や脊椎圧迫骨折を契機に排尿困難、尿閉となる場合があります。

表4. 排出障害の原因

1) 膀胱収縮障害(低活動膀胱)

- ・神経因性（末梢神経障害による）；
腰部脊柱管狭窄症，糖尿病性

2) 尿道通過障害

- ・前立腺疾患など

* * *

「排尿後尿滴下（排尿直後に不随意に尿が出てくる状態、いわゆる尿漏れ）」も排出障害の特徴的な症状で、50歳以上の男性の4割近くが経験するとされています。排尿後も尿道球部（尿道のやや広くなった部分）にとどまった尿が、外尿道口から漏れることによります。尿道を取り囲む球部海綿体筋の収縮力が低下するため起こると考えられています。

* * *

尿閉には急性尿閉と慢性尿閉があります。急性尿閉は急激に発症し、膀胱痛や強い残尿感などを伴います。一方慢性尿閉は、潜在的に排出障害を発症し、膀胱痛などの症状を伴いません。膀胱が充満しても尿意を感じず、「奇異性尿失禁（または溢流性尿失禁；膀胱容量の限界を超えた尿が少量ずつ漏れ出る）」と呼ばれる、あたかも正常な排尿があるかのような症状を呈することがあります。

* * *

治療には行動療法、薬物療養や手術療法があります。残尿が多い場合には「尿道カテーテル」と呼ばれる管を尿道から膀胱内へ挿入して尿を排出させる処置が必要になります。

（文責：金子 由夏）